

## 熊野古道とにほんの里百選・須賀利の旅

2018年11月17日、一般参加者およびJIA会員、総勢28名が三重県津駅前集合し1台のバスで紀州方面に向かいました。津駅から約2時間で道の駅「みやま」に到着、ここから「熊野古道の馬越峠ウォーク」班と「須賀利の街並み見学」の2班に分れ、建築ウォッチングを開始しました。

### ■熊野古道の馬越峠ウォーク

熊野古道の参加者の多くは、一度は行ってみたいと思ってみえたようで、念願叶って迎えた当日は、予想を超えた晴天に恵まれ、最高のコンディションでした。熊野古道・伊勢路全17コースの内の馬越峠コースは美しい石畳が入り口から始まり歩きやすいコースでした。歴史文化や草木、運動と健康などの指導を受けた熊野セラピストの方に同行していただき、石畳道と美しい尾鷲ヒノキの林が作り出す景観を楽しみながら歩きました。

### ■須賀利のまち並み

昔は航路船で尾鷲市までの交通があったようですが今は廃止され、須賀利は陸の孤島です。曲がりくねった山道を通りバスで村の入り口に当たる漁港まで向かいました。集落の形態は入り江に当たる南側に湾を望み、北側の山を背にして、斜面に建物がつくられています。海岸近く平坦地海岸線と平行に貫く「中通り」が生活の中心となる道路です。その「中通り」か



熊野古道の様子

ら山に向かって坂道が伸び、坂道からはさらに等高線に沿った脇道が分岐。その道に沿った民家の基本形式は海に向けた切妻平入りで、まち並みはよく揃い、ひな壇のような傾斜地の敷地に建つので、変化に富んだ生活感のある、瓦の屋根並みの美しい漁村景観が醸し出されています。あたたかい日差しの中、高台にある普濟寺本堂（竹中工務店の祖：竹中和泉の建築）境内で、ご住職のお話と青い海を見ながらお昼弁当をいただきました。

### ■見世土井邸

尾鷲市内で両班が合流し、見世土井邸（設計：清水組設計部）に移動しました。観光協会の方のご案内と、大手前大学建築学科の先生に解説いただきながらの見学です。旧熊野街道に面する山林経営者の建物で、店舗、接客、住宅部分から構成されています。東端の玄関廻りを洋風意匠として入った南側に応接間があります。中央から西側に和室が並びますが、数寄屋造りの客間と夫人室を中廊下で仕切るなど時代的特徴を示しています。和洋を取り入れ、細部にアールデコ意匠を使った上質な住宅です。そのほか敷地には本蔵、米蔵、井戸屋形、土塀などがあり見ごたえのある建物です。

### ■尾鷲小学校

見世土井邸から徒歩で生活道路を西に歩いていくと尾鷲小学校のグラウンドに入ります。建物に近づく、古い石段とその上の新しい軒庇がとても特徴的に見えます。2010年に公募型プロポーザルが行われたCAnの作品です。



見世土井邸内部の見学

増築棟は既設改修棟とグラウンドのあいだに直行する2つのストリートがあります。このストリートは雨の日が多いこの地域で、日常的な学校生活の中で子どもたちが意識することなく自然に集まったり移動したり、さまざまな活動を容易に行える場所です。そしてすべての教室は屋外テラスに面して、そのテラスを通してさまざまな場所とつながり回遊できるようになっています。

また、天井は低い部分と高い部分を組み合わせることで、大きなまとまりを感じさせる空間と小さく親密な雰囲気を感じられる空間を共存させています。しかし、その天井面と壁面の仕上げ材は前者の部屋の領域とは一致させず、複数の部屋や内外を横断するように考えられています。個々の部屋は完結した空間とはならず、隣接する内部空間や外部へ連続する流動的な性格を持たせているようです。

尾鷲小学校からバスに乗り帰路についた、と思ったらバスは幹線道路沿いの大きなドライブインに入りました。ここは魚のまち尾鷲。外せないおみやげポイントだそうです。お店の中は海産物がたっぷり、みんなおいおいの手土産を買いそろえました。そして尾鷲をあとにし、松阪で数名下車、津駅に到着し建築ウォッチングは無事終了いたしました。天候に恵まれた、気持ちいい秋の尾鷲を十分楽しんだ旅でした。

山下和哉（JIA 三重） |  
建築デザイン研究所



美しい瓦屋根の須賀利のまち並み